ありません。自転車、お

と言っていつもサイフのつ しまっては大変だからな」

いている腹巻をして行きま

意しよう。

のみなさん。これだけは注

所へ預けよう。

季節託児

④ から

からだの悪い人、手足

供をみたら、よくいい聞か

また、マスクや手袋などの に加わらないこと。 に傷のある人は、共同防除

4

川ふちで遊んでいる子 幼い子供は、 大きい子供に子守りを

田植えの季節です。農家

「いりません」

2 まい。

させる。

が驚くのも無理は していました。母 間のように茫然と

> は、「このお金を取られて きます。父は問屋へ行く時 口ぐせに「カギはかけた? のでした。この日以来母は

> > ◇押売りはきつばり 来ます。

な教訓をくみとることが出 の作文です。私たちはこの

もと、わが子から目を放す ① 保護者の油断は事故の ◇わが子を水から守ろう に手をふれず、きっぱりと

絶対に入らないこと。

平凡な内容の中に、身近か

それに店の品物まで

つカギのかけ落しがないか。田んぼ仕事のときでもよく す。私達兄弟も毎日二度づ ① 怪しい見なれぬ人は、

どうか見て廻ります。

私の家は農村にあるた

ておきましよう。 注意して、人相、服装を見

一一〇番に電話をかけて

\$ ®

自転車は、少しの間で すぐカギをかける習慣

① 農薬は必ず団体使用

◇農薬は必ず赤旗の下で せ、家人に知らせよう。

(5)

はもちろん赤旗の立ってい 防除具は必ずすること。

舟見野高原の開墾には

(1)

淋しそうでした。 父は、「今月は商人にとって ゆかれてしまったのです。 が、何者かによって持って OIL

◇戸締りはわが家してなかった為、入られた

近所の

協

カ を

よく両親に言われます。 人々に知らせなさい。」と

3

押売りの撃退は、品物

これは中学二年の女学生

「いりません」。と

2

保管しよう。

の防犯

母は魂のぬけた人

戸締りは大丈夫?」と聞

朝起きて見ると

び富山県の三者の協議 されないときは甲乙及 十三年末までに立法化 る冷水害補償問題に関 四、既設発電施設によ

館で、

青木県耕地課長を招

四月十七日午後中央公民

により流水客土を実施

協

定 DU

得帳

b L 大声で b Ø

時

は

N

国が冷水害補償の問題も、

と記してある。ところが、

流水客土の実施期間の延長

た。

実施方策について協議し 冷水害対策協定書の具体的 いて入善町黒部川冷水害対

に運動を進めることとなっ 一論が得られず、さらに強力 ル案と、県の考えている五 | する表層取水水深二メート

メートル案とが対立し、結

策常任委員会を開き、黒四

何ら立法化はしていなっ

会議では、地元民の要求「度決算の認定並びに三十四

また、協議会の三十三年

毒

する国の方針が昭和三

冷

水

害

対 策

委

員

会

町

き、怠りなく交渉を進めて 害対策期成同盟会では関西

いる。協定書の第四項目に

幸及

し、予定どおり工事が進め 十月一部通水発電)をめざ 年十月の完成(明三十五年 の建設工事は、昭和三十七 これに対し、黒部川冷水

> 加えて交渉を行った。 流水客土の実施方を県側も 本年一月以来三回にわたり

るのに反し、関電側は、県

及び地元の負担があるもの 含め全額負担を要求してい 七百円の受益者負担をも

問題の黒部川第四発電所

いので、関西電力に対し、

ことである。 億二千万円もかかるという まま使用するものとして五 ので総面積は六千八百町歩 朝日町側八百町歩が加わる となり、従来の施設をその

いよいよ話を進めてみる 同盟会側は、反当一千

られている。

この流水客土は、新たに 一後一層ふんどしをしめなお をすることになっている。 一ず、近々中に第四回の会合 と考えているので、今のと ころ意見の一致が見出され

とにかく、地元側は、今

問題のようである。 してかからねばならない難

善町役場 集行 責任者 竹内栄治 池原印刷所 印刷所

定価 1部 5円 員が地区ごとに協議会を開 員負担金反当十円は常任委 舟見中学校組合立決る

年度予算の議決のほか、会

ŧ,

六月末日までに徴収す

を執行、議員七名を選挙し 中学校組合議会議員の選挙 護案を可決、引続いて舟見 舟見中学校組合規約改廃の 町議会急施会は、三月一 西

ていたのであったが、昭和 合併に伴い、この度規約の 三十四年一月一日舟見町の 合立中学校として設置され 町、宇奈月町、朝日町の組 舟見中学校は、従来舟見 が決定される。

ており、小家族向としては がらもすべての点が完備し 大帖・三帖・台所・物置・ 西型で南から陽光を受け、 葺壱戸建 (八、五坪)、東 理想的な住宅である。 押入・水道・便所等狭いな

四月一日その許可があり、

ここに入善町外二町舟見中 富山県知事宛申請のところ 改廃が関係各町で議決され

学校組合として新発足、舟 する教育事務を管理し執行 見中学校を設置しこれに関

者は次の方々である。 なっており、入善町の当選 町で三人を選出することに 人、宇奈月町で四人、朝日 数は十四人で、入善町で七 することになった。 この組合議会の議員の定

時は外へ出て大声で近所の | をつけよう。 酒井 伊平 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

> 清金梅水森津 信頭耕 茂 Œ

町 の完 住 宅 成

たいとの当局、議会のはか きびしい住宅難を解消し

地区别開設狀况

このほど完成、近く入居者 らいで、国県の補助を得て この住宅は木造平屋建瓦 (上原) (大 善)

(完成した西町住宅)

の二回入善海岸一帯に大津 圃は砂礫原と化し、官道 被が襲来し、人家は流失、田 ① 入植した年とその前年 たろうか。 方はどのような様子であっ 移住して来たとき、この地 るばると二十組の若夫婦が 加賀から野中の今江へは

② 撒布するときは、附近 見やすいところに明示し、前から、終った七日間人の と。撒布区域を実施の二日 導員のもとでおこ なうこ と。また残った薬も団体で 使用のときは、必ず指 2 を経て海岸沿いに赤川へ出 ていた。当時官道は入膳、 泊に至る現在の道につけか から椚山新、古黒部を経て 壞されたので、改めて君島 ていたが、この大津波で破 君島から八幡、横山、春日 国道)は往来出来なくなっ 入植地の舟見野は広莫

一般の人は農薬撒布中 3 t; に、三〇三年前の舟見野、 の新川郡絵図であるが、こ 後の享和三年(一五六年前) 帯は殆ど不毛の荒野であ 即ち野中、舟見、愛本の とした荒地であった、写真 れをみても想像出来るよう

... 57回... 野中の今江と 加賀の今江(4)

のであろう。 いうから、この流域には所 って町の基礎をつくったと 年前)四十八戸が現地に移 よると、元和九年(三三六 貫していた。舟見町史料に 々に若干の民家があったも

をはば(河岸段丘)上に導 が掘さくされ、黒部川の水 四五八年程前)に下山用水 末端部が間拓された。 野、横水以北の舟見野高原 くことに成功し、下林、下 これより先、文亀年間(ことである。

土史に「明暦二年、加賀藩 かったようである。越中郷 年後、愛本橋完成の翌年の て代納した。」と記してい は收穫不足して雑穀を以っ 地成績挙らず、寛文三年に 江村の住民を移した。この 今江を悲点とした舟見野

前田藩では藩政の初め、

大家庄方面に向け南北に縦 そのかんがい流域の開墾さ 舟川が舟見山麓から今江、 水の完成年代を調べると、 従ってここをうるおす各用 ことが先決問題であった。 かんがい用水を引き入れる れた年代がわかるのである 今江入植者達が来た頃は

は舟見野を開き、加賀国今 の開墾は容易な事業ではな で、舟見宿が出来てから四 る。移住してから七年後

林 四(桑畑新)四、一(下若 以下、免四つ以上の所は、 免三つ二歩 島迷 免三つ 舟見野新、 四、四(下山、 口、下山新、古畑

見 义 0 (享和三年)

見せんずる為にはあら け物などのように人に 腹にあくの為なり。

がよし。 し。つらの皮は、うき 足の皮は、あつきがよ るようなり。 所躰をなし、人に誉め売女なり。人の見る時 人もろともに小ざかし はどうやらこの真似す のものなり。今の学者 られんとするは歌舞妓

り、足の皮はうすくな ゆえ面の皮はあつくな 女童に見限らる。さる く口はきけど、行いは 年ほど前の学者) (三浦梅園は百七十 株をふむこと

三浦梅園のこば

示 - 179

五 七 殿村) 四

ることを申し合せた。 不慮の災害から守るため今 農繁期に於ける子供達を 季 節 保 育 所

はじまる

舟見野 用水(四千石用水) |永い裏乱から復興するため

国内の荒地を悉く開墾する

太

(舟見用水) の完成はそれ

者には他村の人であっても

となっている。 五、五(山王) 八(大家庄、三枚橋、 明日)四、五(金山)

許可し、新開地は二ヶ年間

奨励策を講じた。開墾希望 ことを計画し、特別の保護

は作りどくの無税、次の二

二十組の内、肝煎(村長)

加賀から野中へ移住した

らか墓ノ木に移り、小松五 五兵衛の子孫はいつの頃か

正租を課したがその税率は ヶ年間は半租、五年目から

ずけて安心して仕事に励み ましよう。 ず子供は必らず保育所へあ 後六ヶ月以上)幼児を問わ が開設されます。乳児(生 域にわたり春季季節保育所 年も五月一日から町内全地 (小摺戸) 〔飯 野〕 東狐 上飯野 〔新屋〕 慈眼庵 町新屋 向 島下山 墓ノ木 中村 下村 若栗新 福島 五郎八 下飯野

小摺戸

一宿

り南には用水がなく、未開 江入植の頃は野中の中部よ あるから、三〇三年前、今 年(一五七年前)のことで より五十三年程後の享和二 1○年程前)、愛本新用水 十三年程後、寛延年間(二 が出来たのは今江開拓の九

の荒野となっていたのであ

公四民などといって、標準

という。次郎助は絶家し、そ

も四公六民、五公五民、六

徳川時代にはどこの藩で 般にくらべて低かった。

收穫高の四割乃至五割、

D

の子孫はいないそうで 啓太郎氏がその後裔である 兵衛と名のった。今の小松

道市 上野一区 青島 荷 浦山新島 史 見 也 Ц

野中 下今江 愛場 小森水 古黑陪 春日

小杉 椚山新

② 舟見野の内、舟見、愛本 野中あたりを善万野と呼ん 舟見野の内、舟見、愛本

上野二区 下上野 五十里 田中 君島

伝説もある。 て、ここを支配し、死後、 という地名になったという 塚を築いて葬ったので藤塚 に藤仲遠というものがい 大同年間に、善万野の一角 呼んだという。また、同じく ここを領したので善万野と 郎兵エという豪族がいて、 〇年程前)に殿村に善万四 でいた。大同年間(一、一五 の所得となるような政策を どい所は六割を租税として 八分程度で、土地の良否に あり、大がいは五割~三割 分(これを免五つ九歩と書 んあい) がちがっていた**。** より村々の税率(免相ーめ とった。加賀藩でも五割九 藩へ納めさせ、残りが農民 度の低い税率で之を保護育 いた)という特別のものも 新開地は概ね一割五分程

松にも小坂佐十郎という家とれた。その時の話に、小

江から野中の今江へ二、 三百年を記念して加賀の今

Ξ

昭和三十一年、今江移民

つていると語ったという。

(小林作次郎氏談)

があったが、今北海道へ行

成した。幕末慶応の頃の調 べによると、 免一つ五歩 今江、 免一つ四步 西中

免二つ五歩 二つ屋、 免二つ二歩 中村、愛本新、藤塚 中沢

免二つ七歩 愛本 中

学問は飯と心得べし。

人に好かれんとするは 衣裳りつくしくかざり

候であったが、富山地方気 **駅台から発表になった今年**

きく、ときどき低温のあ

になりましよう。 れやすく、ときどき低目

やや変動が大

※改善を図るために米作

業の指定を受け、つぎの委

域(舟見・野中)がこの事

今年はまた、新たにD地

行った。

これは、国民健康保険の

上島

○入 青島 上田島 区田島

場で優良健康家庭の表彰を

四月十三日町長は役場議

々が委員に選任された。 会長(公益代表)亀田盛開 の組織が改正され、次の方 に伴なって国保運営協議会 〃国民皆保険』という施策

健康家庭の表彰

画を立てている。 山)が指定を受け、事業計 はB地域(入善・椚山・横 受け、事業を行った。今年 小摺戸)がそれぞれ指定を 木・上原)で地域(新屋・ に今までA地域(飯野・青

新農村建設特別助成地域

上野広幸

野島邦 兼松

事務局長

金沢

國保

運営協議

슾

毎月内地米 十五日分

連絡所へ申し出て下さい。 所、飯野、小摺戸、新屋旧

般配給基準量……一人

九八七五区区区区

福沢 森田 柳沢

> 安昌 周造

日当り三大五グラム

Ļ

役場産業課又は舟見支

〇小摺戸地区

飯田

干松

書

名 新着図書

著者名

二宮尊徳

奈良本辰也

内山 蒲生礼

北島正元

区 上飯野新

啓

江戸時代 フランス 現代史 イスラーム

購入通帳及び印鑑持参の うとする者は、当日限りに の年二回で、登録変更しよ

D

地

域

0

指

定

ŧ

£ 金山栗

る

員を選出して新しい村づく

を家庭全員が元気で送り、 被保険者で昭和三十三年度

同同同 委員

西尾 小 笹森島

三郎

田中

幸男 正雄

川瀬 儀友

呉紡社宅 十大区

岩馬門

清政

上野豊次郎

区長会長

りに邁進することとなっ

入善一競作会を開催する

の気象予報もま

た悪天候が予想

やや早目で、明けは大体

三、参加資格と条件 二、主催

1.水田三反歩以上の耕作

会長

前田 小森 隆吉

受賞者氏名

同同 (医師代表)

西村与

野島 泉

嘉俊郎一

B

赤

募

協

力 金 U

ま

L

ょ

う

田中燈江

D地域農村振興協議会

表彰したものである。

たもののうち優良な家庭を 一回も病気にかからなかっ

会長代理

農家

2.競作田の面積は一反歩

委員 橋場秋義 沢井順平

入善町

た

つゆ入りは、平年並か

されます。

昨年は近年にない異状天にかけて、

昭和34年5月10発行

気温は、

晩春からつゆ期 次のように予想

> 月中旬にかけて夏型は崩 きせず、八月下旬から九 されます。しかし長つづ 期は比較的に高温が期待 とがありそうです。盛夏 め頃それに七月中旬頃一 五月上旬頃晩霜のおそれ ます。特に四月下旬から らわれやすい傾向があり

期予報にご注意下さい。 ますので、今後発表の長

四

申込方法と期限

調査の結果大体

近不順氣味の傾向があり

3.一反歩同一品種で同一

松 山本外輝雄 永原数之

山崎喜1 (横山)

舟川繁松(舟

小堀力

吉田啓二 (椚山)

同同同同

伊岩吉积岩

順 磯 久 三 正平吉 雄 郎 三

期

間

五月一日 ~

五月三十一日

青木) 中田竹(飯野)伊 四松(上原) 広野良一(込尾正明 (入善)

同

(被保険者代表)

小森文作 沢井幸作 森本

啓治 米沢長吾 酒井みよ 小坂一郎 高田繁松 舟本

接田の場合二枚まで) 以上(畔を境とした隣

なお、夏期の天候は最

の天候について

今年の暖候期 表季節微報 3月26日発

> 時的にかなり低くなるこ があり、また六月中旬初

がありそうです。 上旬頃に、つゆの中休み

す。また六月末から七月 や多くなる傾向がありま 平年並ですが、雨量はや 余計な費用がかからないこ 分娩できるのと、安全で、 す。何しろ、体一つで入院 ら元気で退院して行かれま 献立による食事にゴ満悦、

行届いた看護に感謝しなが お母さんたちも保健所の

上赤ちやんの保育器

下赤ちやん検診

monimum

ぶりに、助産婦たちはうれ 収容をしているという盛況 他の室を転用して定員外の

しい悲鳴をあげています。

るので、みんな元気に育っ りして万全の手当をしてい 児がおり、保育器を用いた ます。そのうち四人の未熟 人の赤チャンが生まれてい 頭に四月二十五日現在で十 設され、坂東豊チャンを筆

ましい風景です。 のけに助産婦さんたちを助 センターの忙がしいときな

けておられる姿は、ほほえ

物、おむつは無料でお貸

一、趣旨

一ど、自分のしごともそっち

一、入院中お使いになる、

のいれようも大したもの。

一、分娩料及び人院料(一

週間) 五、〇〇〇円 おふとん、赤ちやんの着

地区婦人会員の方々の力

間

入院期間は分娩後一週

産婦室のベッドは満員で

入院の受付は夜中でも 入院案

內

一、おむつ、衣類のお洗濯

す。はセンターでいたしま

高位收穫技術の※

健康センターが四月一日開

ようですっ

全国第一号の入善町母子 | のところ大へん受けがよい | いたします。

○腰まき 〇脱脂綿

米作入善一も回を重ねる 米作入善一」

ふるってご参加下さい。 要綱により開催しますから きています。本年度も左の 作の収穫量向上を目的と 浅耕土地帯である本町稲 全国的にまれな冷水潅漑

2.審査補助員 産業課員 農業改良普及所長

六、審査員 1.八月上旬地区において 3.審査の方法は審査員に 2.本審査は成熟期に行う 1.審查員 産業課長 おいて決定する 区より三点を本審査に 附記、 する 審査の結果により等位を 決定し町長がこれを表彰 表彰 思葉改自等乃所贈員

ばならない。 記録を提出しなけれ 五、審査 定の様式により六月十日 まで産業課あて申込むこ

キロに今一歩のところまで どとに向上し、反収七五〇

三等 二等 蟀 本審査に選出された 農家は、所定の耕種 三二一点点点点

5月 8、9、10日 前9時~

児 写

入善町中央公民舘

富山県入善町社会福祉協議会 催

区 長

四月 日現在

竹内 鍋谷 낦 力松 要松 林作 〇椚山地区 区長会長 田ノ又 島

〇横山地区 古黒部一 古黒帝二 ク門区 椚山二区 谷 広川 鍋島 長嶋 水野 雪枝 惠次

二十一日分 〇新屋地区 区長会長 墓ノ木 向島 東町

藤田 西島吉太郎 米山 高源菊次郎 健造

慶充 古墳の話

東 京 日本言論史 ポンとモスクリの間

鎖につながれた巨人 柴田徳衛 牛島俊作 久米井東 小林行雄 朝広正利

清水幾太郎 栗田賢三

論文の書き方 からだと食物 野上弥生子 村田聯子 古川春寿

夕映え 日本の工業地帯 自由の問題 徳川家康第13巻 古典の知慧 小説の鑑賞 知性の女学 女学と人生 現代文学の周囲 福田英子 私の中国旅行 田中美知太郎 円地文子 臼井吉見 高橋義孝 十返 肇 岡本清 山岡荘八 佐藤 朔

宮本百合子

二つの庭 播州平野 花嫁の学校 朱を奪ふもの

競作会要綱

○産婦の寝まき ら附添の方は いりませっ、産婦さんの御用は全部 頂くものは次の通りです 入院のとき持って来て 一~二枚 一~二枚 ○ボロ切れ 〇母子手帳 〇ふとん綿 〇洗面道具 ○洗面道具 一式 ○ふとん綿 二枚 二枚 (熱湯で洗

五〇〇瓦位一〇毛布 〇丁字帯

二十枚 月

季節託児所開設メーデー

川へゴミを

流さないよう

く、また流れをせきとめ なく、衛生的にもよくな は、美観をそぐばかりで

 $\boldsymbol{\sigma}$ 1日(金)

大日 五日 三田 (水 交 色 至

> こどもの日 憲法記念日 八十八夜

端午節句

「ごみ・あくた」を平気

ます。

みだりにごみ・汚物な

濫、浸水のもとともなり て、大雨のときなど、氾

(田)日(日) 八日(金) 七日(木) 花まつり 参議院議員選挙期日公示 立夏

> い」と川へ捨てる「ごみ のです。「これだけぐら ぜひやめてもらいたいも で川へ流す悪い風習は、

・あくた」も、大ぜいの

なっていますが、

罰せられることに ど捨ると、公衆の利益に

反する行為として、軽犯

れるから、というのでは

〇~一七日 五日(金) <u>E</u> 母の日 愛馬デー

軽自動車税納期 小摺戸の藤祭り

七日

日

(H

米屋の登録変更 〇上原地区 清い流れも、下流では下 ます。上流では日本一の 下流では相当な量になり 水同様となりましよう。 ものがみんなそうしたら

杉原 宝田 龍瀬 永年 栄作 友吉 9月見地区

登録を変更することが出 れる方が、住所の移転・そ

下上野

の他の都合で、小売業者の

お米の配給を受けておら

上野第一

ッ 第二

第二

川へゴミを流すこと

ようにしましよう。

て、ゴミなどを捨てない なく、公民のしつけとし

来ます。

変更期日

五月十

十一月十一日

○飯野地区

吉原第二上原定左五門

園家

区長会長連絡協議会長 岩場

入善図書館

清八 利維

- 180 -